

待望の「平成の滑稽」が届き、まずユニークなカバーが目飛び込んできました。

一般の読者が、書店で手に取る第一条件は、本の顔である表紙です。井原靖章氏のセンスに感動いたしました。

私も「俳壇」の愛読者、そして「微苦笑俳壇」へ投句しつづけている者は、疾うの前から、この本が出版される事を知っていましたが、多くの人が買ってくださって、ベストセラーになることを祈っています。

八木健先生との出逢いは、私が以前、BS の俳句王国に出演させて頂いた時が、初めてでした。勿論この番組のファンで投句もしていましたから、司会者としてのお顔は存じていましたがオンエア前日に出演者一同と親しくお話をさせて頂き、ますます八木ファンになりました

私は俳句歴より、実は川柳歴の方が長く、どうしても作風が川柳的になってしまいます。今や俳句と川柳の境界などを云々する時代ではないと思います。線を引いて分けることはナンセンスだと思っています。

川柳の三要素は「穿ち」「おかしみ」「軽み」です。これはまさしく「滑稽俳句」そのものですね。ですから「滑稽俳句協会」の発展は間違いないと思います。

「平成の滑稽」の目次を見ると春夏秋冬と新年及び雑に区切られていて、どこから読んでも魅力的です。独断と偏見で私の好きな一句をそれぞれのブロックから採り上げてみます。

春

人妻に抱かれ上手の春キャベツ 敏夫

上五から中七までのドキドキ感。淡い緑色のふわふわの春キャベツ。目に見えるようです。どんなお献立でしょうか。食事の会話まで聞こえてきそうですね。

夏

豊かなる肉体の罪藪蚊来る 伸子

これは私わ詠んでくださっています。蚊に罪はな

いのです。悪いのはこの私でございます。ほほえましい自虐ですね。

秋

マドンナの杖ついてくる敬老日 和典

ひそかに憧れていた一つ年上のクラブの先輩、面影はそのまま、身のこなしも上品、高価そうな杖をついて敬老の日にご出席。

冬

開放のドアより太き隙間風 健

何といつても太き隙間風が抜群です。暖房の効いた部屋を一気に冷却してしまうほどの風の束、ぶるっと震えてしまいます。

新年

杵の音聞こえてこない鏡餅 幸子

これは今を詠む句の代表だと思います。工場で大量に生産されて、プラスチックで包装された鏡餅。カビが生えないというメリットがあるので、多くの家庭に購入されていますが淋しいですね。

心惹かれた作品が沢山ありましたが挙げれば限りのないこととて失礼をいたしました。